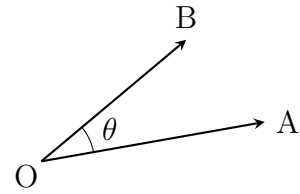




## ベクトルの内積

定義.  $\vec{0}$  でない2つのベクトル  $\vec{a}$ ,  $\vec{b}$  に対して, 始点を1点Oに合わせたとき,  $\vec{a}$ ,  $\vec{b}$  の終点をそれぞれA, Bとする. このとき,  $\angle AOB = \theta$  ( $0^\circ \leq \theta \leq 180^\circ$ ) を  $\vec{a}$ ,  $\vec{b}$  のなす角という.



定義.  $\vec{0}$  でない2つのベクトル  $\vec{a}$ ,  $\vec{b}$  のなす角が  $\theta$  であるとする. このとき,

$$|\vec{a}||\vec{b}|\cos\theta$$

を  $\vec{a}$  と  $\vec{b}$  の内積といい,  $\vec{a} \cdot \vec{b}$  と表す.

定義. 任意のベクトルと  $\vec{0}$  の内積は0と定義する. すなわち,  $\vec{a} \cdot \vec{0} = \vec{0} \cdot \vec{a} = 0$  と定める.

注意. ベクトルの内積は, その定義から (ベクトルではなく) 実数であることに注意する.

内積の図形的な意味を考える.

$\vec{0}$  でない2つのベクトル  $\vec{a} = \vec{OA}$ ,  $\vec{b} = \vec{OB}$  の内積は,

$$\vec{a} \cdot \vec{b} = |\vec{a}||\vec{b}|\cos\theta = OA \cdot OB \cos\theta$$

であった. ここで, 点Bから, 直線OAに垂線を下ろし, その交点をHとすると,  $\pm OH = OB \cos\theta$  が成り立つ. よって,

$$\vec{a} \cdot \vec{b} = OA \cdot (\pm OH)$$

がしたがう. 以上から, (すぐ後に定義する正射影ベクトルという言葉を用いると,) 内積  $\vec{a} \cdot \vec{b}$  は,

$\vec{a}$  と,  $\vec{b}$  の  $\vec{a}$  への正射影ベクトルの符号付き長さの積

と考えられる.

定義. 上のように作った, ベクトル  $\vec{OH}$  のことを,  $\vec{b}$  の直線OA上への正射影や,  $\vec{b}$  の  $\vec{a}$  への正射影ベクトルなどという.

定義からほとんど明らかであるが, 内積の性質についてまとめておく.

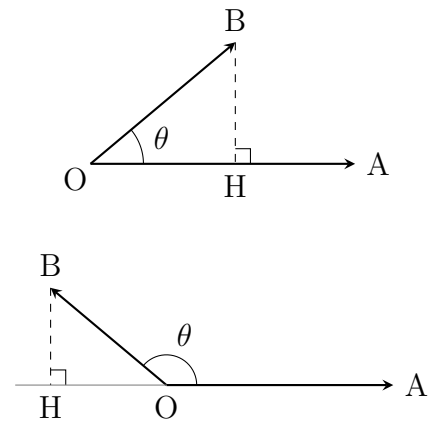
命題.  $\vec{0}$  でない2つのベクトル  $\vec{a}$ ,  $\vec{b}$  について, 次が成り立つ.

- $\vec{a}$  と  $\vec{b}$  が平行  $\iff \vec{a} \cdot \vec{b} = \pm |\vec{a}||\vec{b}|$
- $\vec{a}$  と  $\vec{b}$  が垂直  $\iff \vec{a} \cdot \vec{b} = 0$

証明.  $\vec{a}$  と  $\vec{b}$  のなす角を  $\theta$  とする.

- $\vec{a}$  と  $\vec{b}$  が平行であると仮定する. 同じ向きなら,  $\cos\theta = \cos 0^\circ = 1$  なので,  $\vec{a} \cdot \vec{b} = |\vec{a}||\vec{b}|$  が成り立ち, 反対向きなら,  $\cos\theta = \cos 180^\circ = -1$  なので,  $\vec{a} \cdot \vec{b} = -|\vec{a}||\vec{b}|$  が成り立つ. 逆もほとんど同様に示される.
- $\vec{a}$  と  $\vec{b}$  が垂直であると仮定する.  $\cos\theta = \cos 90^\circ = 0$  なので,  $\vec{a} \cdot \vec{b} = 0$  が従う. 逆も同様である.

□



内積と成分

定理. 2つのベクトル  $\vec{a} = (a_1, a_2)$ ,  $\vec{b} = (b_1, b_2)$  に対して, 次が成り立つ.

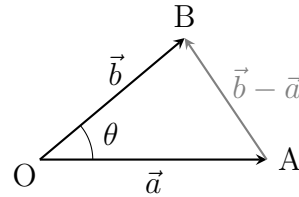
$$\vec{a} \cdot \vec{b} = a_1b_1 + a_2b_2$$

証明. まず,  $\vec{0} = (0, 0)$  なので,  $\vec{a}$ ,  $\vec{b}$  のどちらかが,  $\vec{0}$  であるときは, 明らかである.  
 $\vec{a} \neq \vec{0}$ ,  $\vec{b} \neq \vec{0}$  とする. 右図のように

$$\vec{a} = \vec{OA}, \quad \vec{b} = \vec{OB}$$

となるように, 点 A, B をとると,

$$\vec{AB} = \vec{b} - \vec{a}$$



が成り立つ.

$\triangle AOB$  に対して, 余弦定理を適用することで, 等式

$$\begin{aligned} AB^2 &= OA^2 + OB^2 - 2OA \cdot OB \cos \theta \\ |\vec{b} - \vec{a}|^2 &= |\vec{a}|^2 + |\vec{b}|^2 - 2|\vec{a}||\vec{b}| \cos \theta \end{aligned}$$

を得る. ここで, ベクトルの成分表示と大きさの公式,  $|\vec{a}| = \sqrt{a_1^2 + a_2^2}$  と, ベクトルの成分表示の差の公式,  $\vec{b} - \vec{a} = (b_1 - a_1, b_2 - a_2)$  に注意すると, 上の等式は,

$$\begin{aligned} (b_1 - a_1)^2 + (b_2 - a_2)^2 &= a_1^2 + a_2^2 + b_1^2 + b_2^2 - 2|\vec{a}||\vec{b}| \cos \theta \\ |\vec{a}||\vec{b}| \cos \theta &= a_1b_1 + a_2b_2 \end{aligned}$$

と計算できる. 内積の定義から結果が従う. □

内積の計算法則

- $\vec{a} \cdot \vec{b} = \vec{b} \cdot \vec{a}$  [交換法則]
- $\vec{a} \cdot (\vec{b} \pm \vec{c}) = \vec{a} \cdot \vec{b} \pm \vec{a} \cdot \vec{c}$  [分配法則]
- $(k\vec{a}) \cdot \vec{b} = \vec{a} \cdot (k\vec{b}) = k(\vec{a} \cdot \vec{b})$  ( $k \in \mathbb{R}$ )

証明. 交換法則は, 内積の定義から明らかである.

$\vec{a}$ ,  $\vec{b}$ ,  $\vec{c}$  の成分表示をそれぞれ,  $(a_1, a_2)$ ,  $(b_1, b_2)$ ,  $(c_1, c_2)$  とする.  $\vec{b} \pm \vec{c} = (b_1 \pm c_1, b_2 \pm c_2)$  なので,

$$\begin{aligned} \vec{a} \cdot (\vec{b} \pm \vec{c}) &= a_1(b_1 \pm c_1) + a_2(b_2 \pm c_2) \\ &= a_1b_1 + a_2b_2 \pm (a_1c_1 + a_2c_2) = \vec{a} \cdot \vec{b} \pm \vec{a} \cdot \vec{c} \end{aligned}$$

が成り立つ.

3つめの主張については, どの内積の値も,  $ka_1b_1 + ka_2b_2$  であることから従う. □

最後に, これまでの結果をまとめておく.

$$\vec{a} \cdot \vec{b} = |\vec{a}||\vec{b}| \cos \theta = a_1b_1 + a_2b_2, \quad \cos \theta = \frac{\vec{a} \cdot \vec{b}}{|\vec{a}||\vec{b}|} = \frac{a_1b_1 + a_2b_2}{\sqrt{a_1^2 + a_2^2} \sqrt{b_1^2 + b_2^2}}$$